
元の世界まで何マイル？

ガラクタ・エントツ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

元の世界まで何マイル？

【Nコード】

N8137Z

【作者名】

ガラクタ・エントツ

【あらすじ】

魔法学園始まって以来の潜在魔力の持ち主だが落ちこぼれ魔道師見習いのミリシア。召喚魔法練習中に誤って召喚したのは、文化祭の準備で教室に居た高校生三人。いや、残っていたのは五人じゃないか。残り二人はどこへ行った。残りの二人と帰る方法を探しに異世界を旅することに。でも、なぜか魔族やら何やらに追われる身に。この世界。思ったよりも平和じゃないんですけど。古典的冒険ファンタジーです。

第1話 召喚されちゃいました

エナト火山の地下深くにある古代魔法帝国により作られた巨大な地下聖堂。

その中心には、血脈の力を利用した巨大な魔法陣が存在していた。いにしえ古の文明は、大地の力を用いたこの巨大な魔法陣を利用し、異界の神々すらも召喚、使役したと言う。

魔法陣は、今、邪教徒たちが崇める堕天使ルシフェルを召喚するために、暗黒魔道師バルガスにより用いられようとしていた。

魔法陣は、既に作動を始め、聖堂は魔法陣が発する朱色と大量の瘴気で満たされていた。

もし仮に、並みの人間がその瘴気を吸ったならば、死亡とは行かないまでも意識を保つてはいれないであろう。

そして、その場では、邪心召喚を阻止しようとする冒険者と邪教徒との間で、激しい戦いが行われた。

邪教徒たちは、魔法陣を守るべく、約百匹の『ゴブリン』、約二百体の『リビングデッド』、約五十体の『彷徨う鎧』と骸骨兵、二十人の魔道師と暗黒司祭、十人の黒騎士、三人の魔族が配置されていた。

対する冒険者は、合計十二人。数こそ、少ないが、誰も英雄・勇者と呼ばれるに相応しい猛者であった。

数において劣勢の冒険者たちは、邪教徒の首領であり、暗黒天使召喚の要である暗黒魔道師を狙い一点突破をしかけた。

ゴブリンやリビングデットは、次から次へと切り倒され、死体の山を築かれていたった。

そして、その脇では暗黒魔法と古語魔法、精霊魔法など双方の魔法が飛び交っていた。

作戦は成功し、暗黒魔道師バルガスと向かい合う白銀の騎士バーン。

厄介な魔族や黒騎士は、仲間が引きつけてくれていた。

バルガスとバーンの間に居る魔物は暗黒司祭の使役する『彷徨う鎧』八体のみ。

白銀色に輝くミスリル甲冑を身にまとった聖騎士バーンは、『彷徨う鎧』たちを、その神速とまで言われた剣技で切り倒す。

「デイグ・ボルト（雷撃破）」

周辺で戦う自分の仲間へのダメージを気にすることなく、騎士に向かい青白い電撃を放つ魔道師。

騎士は電撃をその身に受けるも、電撃に怯むことなく魔道師に対して、剣を振るう。

「バルガス。お前の好きなようにはさせない！！」

バーンは、バルガスの胸に、その剣を突き刺した。

苦痛に顔を歪めるバルガス。

「バルガス様！！」

バーンの仲間であるギリアムやアリソンを一人で相手にしていた黒騎士アシュランは、バルガスの異変に気付き叫んだ。

「おのれバーン。お前ごときのために、我が長年の野望が潰えろとは……だが、一人では死なん。お前たちも道ずれだ」

ルシフェルを復活させるために、多くの人を苦しみ三つの国を滅ぼした魔道師バルガスは、ついに息絶えた。

だが、バルガスが息絶えた直後、魔法陣が暴走し始めた。

神話級の呪術により封印されている堕天使ルシフェルを召喚させる魔法陣だ。もし仮に、そのエネルギーが無秩序に放出されれば、この地域一帯を破滅させるだけの力はあるだろう。

「ストレイン。何とかならないのか」

バーンは賢者兼魔道師ストレインに尋ねた。

「もう、止めるのは無理です。今逃げないと、我々も全滅です」

「デイドリツヒ。脱出するぞ。力を貸してくれ」

「判ったわ。バーン」

希少種であるハイエルフにして、精霊使いのデイドリツヒは、地下聖堂から脱出すべく、精霊魔法を唱え始めた。

三十分後、エナト火山は、大噴火をおこし、その火砕流によって二万人の命が失われた。

西野 翔夢^{かのん}が意識を取り戻すと、なぜか、怪しい文字が書かれた床の上に居た。

隣を見ると、友人で美青年かつ好青年の南田玲央^{れお}と体力と元気だけが取り柄のバカ娘、北村沙良^{さや}が倒れていた。

そして、目の前には、魔法使いのコスプレをした背の小さい少女が居た。

ツインテールに髪を縛った目がクリつとした可愛らしい少女だ。そして、肩には、ネズミの様なハムスターの様な動物を乗せていた。

「言葉判りますか」

少女が、心配そうな顔で、西野に話しかけた。

明らかに日本語とも英語とも異なる発音・言語にも関わらず、不思議なことに少女が何を言っている理解することが出来た。

自分の身に何が起こきたのだろうか、西野は不安になった。

「さつきから、こいつ全然話してないぞ。判らないんじゃないか」
今、気のせいかな．．．ネズミが話したような気がした。

目の前の少女の怪しい服装、初めて聞いた言語を理解できると言う不思議な現象、そして話すねネズミ。

これを説明するためには、二つの可能性が考えられた。

一つは、夢。

もう一つは．．．小説やアニメで良くあるパターンだけど．．．あまりにも非現実的過ぎる。

シャーロックホームズ大先生によると、どんなに変であっても、他の可能性がない以上、それが真実だと言っていたような。でも．．．ありえない。ありえない。あつて、たまるか。

西野が悩んでいると少女の方が話しかけてきた。

「使い魔を召喚するつもりだったんですが．．．失敗しちゃったみたいで．．．どうしましょうか」
「返してくれ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8137z/>

元の世界まで何マイル？

2011年12月25日22時49分発行